

令和4年度決算 361億4094万4千円

【歳入】

- ・市税 137億7635万8千円
 - 市市民税55億(個人38.2億・法人16.8億)
 - 固定資産税67億・都市計画税6.9億
 - 軽自動車税2.3億・市たばこ税6.5億円
- ・ふるさと寄付金 4億3424万円
- ・地方消費税交付金 19億449万円
- ・地方交付税 13億7576万円
- ・国庫支出金 70億3425万円

【歳出】(主な事業)

- ・ふるさと応援寄附金事業 2億3814万円
- ・住宅用地検討調査事業 990万円
- ・新庁舎整備事業 47億830万円
- ・広域組合負担金(介護保険) 7億6139万円
- ・保育人材確保事業 1842万円
- ・出産・子育て応援交付金事業 5228万円
- ・産後ケア事業 137万円
- ・子どもの医療費助成事業 2億9176万円
- ・休日救急医療センター運営事業 4058万円
- ・西部環境施設組合負担金 8億2302万円
- ・栖の宿キャンプ場改修事業 5494万円
- ・企業立地奨励金 2億1043万円
- ・プレミアム付商品券発行事業 3億5221万円
- ・鳥栖駅東6号線等道路改良事業 5542万円
- ・河川浚渫改良事業 9965万円
- ・地方バス路線事業 5088万円
- ・消防事務組合負担金 7億2676万円

令和5年9月定例会

令和5年度補正予算 10億4216万円 補正後328億4105万1千円

【主な歳出】

- 次期リサイクル施設整備事業 4450万円
- 農林水産施設災害復旧経費 3000万円
- 国土交通省・今町線道路改良事業 1800万円
- 土木施設災害復旧経費 4000万円
- 文化会館大ホール客席等改修事業 4500万円
- プロスポーツ地域交流推進事業 150万円

令和4年度決算

【歳出】(主な事業)

- ・市民公園整備事業 2億2415万円
- ・田代小学校大規模改修事業 5億6628万円
- ・学校給食センター運営事業 1億8933万円
- ・中学校給食運営事業 1億2152万円
- ・放課後児童健全育成事業 1億6702万円
- ・陸上競技場改修事業 2億7614万円
- ・市民文化会館改修事業 2億3287万円



発行者:
西依義規
〒841-0005
鳥栖市弥生が丘
2-110-1
TEL090-1874-2107
e-mail:
waku2sg@gmail.com



【地元からの要望内容】
安全に通行が可能な歩道および車道の幅員確保

【現状】

- ①歩道幅員が狭い(小・中学生の通学路)
- ②車道幅員が狭い区間あり
- ③カーブ区間の見通しが悪い
- ④交差点部の道路幅員が確保できていない

【整備効果】

- ①交通安全の確保
- ②交差点の改良
- ③新たな土地利用への期待

「国土交通省・今町線」新規道路事業化路線に 測量設計委託料1800万円予算可決

【西依(質問)】■両側に歩道整備を予定しているとのことだが、事業完了までの期間は。

【部長(答弁)】■道路事業を進めるにあたって、調査や設計をはじめ、用地取得などに時間を要することから、事業完了までに一定の期間が必要になってくるものと認識しています。地元の皆様のご理解・ご協力をいただきながら、できるだけ早く、安全・安心の確保ができるように、事業推進に取り組んでいきたい。

建設経済常任委員会 所管事務調査報告

※所管事務調査報告書より抜粋

◆道路インフラ整備について

今後の新規道路事業化路線(案)

■(市道新設)真木・幸津線(赤井手交差点)新鳥栖駅南入口(約1300m)

市道酒井西・真木線は、東西交通の主要なアクセス道路としての機能を果たしており、その路線を西側に延伸し、国道34号線と接続することにより、市中心部への大型車混入率を抑え、混雑解消に繋がる。更に途中から分岐し、下野交差点へ向かう道路●の新設整備検討を提案する。



■(都)久留米甘木線(神辺池田交差点)田代新町交差点(●)の計画変更・整備

国道3号と34号を結ぶ当該路線は、幹線道路として交通量が多い一方で、小学校や中学校の通学路として指定されている。しかし、道路幅員が狭く、歩道がない区間もあるなど、道路利用者の安全が確保されていないことから、現道を市道田代大官町・萱方線●と同様の幅員14m(車道7m・歩道3.5m×2)に計画内容を変更して整備を行うことで、車輛や歩行者等の円滑で安全な通行の確保を図ることができる。

ただ、田代新町交差点から西側は、県道の整備が決まっておらず、県とも整備方針を調整の上、検討することを提案する。

中学生が議場にやってきた! 中学生スピーチを開催

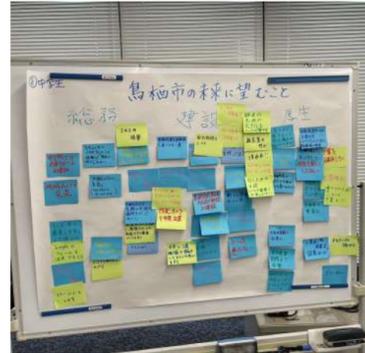
■市議会の議場にて、議場オーブンニング記念事業「中学生スピーチ&まちづくりワークショップ」が開催されました。

今回の事業は、中学生が、自分たちが住んでいる街の未来について考えることで郷土愛を育て、市政への関心を高めるとともに、議場で意見を表明することで、議会の広聴として、政策立案の参考にすることを目的としています。

市内5中学校から9人の生徒の皆さんに森林を活用した自然体験ができる観光スポット、サガン鳥栖の落ちないお守り、中学生間の交流会、町ぐるみの避難訓練、家庭でのLED街灯など色んな提案をしていただきました。

スピーチの後は、議会報告会と意見交換会(ワークシヨップ)があり、多目的グラウンドを作るにはどうしたらいいかという議論になり、空き家や古い施設などを撤去移設して、土地の再開発をやったらどうかなど、そこでも中学生の素晴らしい考えを聞くことができました。

※令和5年12月定例会は、12月1日に開会予定で、一般質問は12月11日から開催されます。ぜひ議会傍聴またはインターネット中継をご視聴ください。





小・中学生の通学路 早急な安全確保を

【西依(質問)】
国土交通省・今町線の道路整備が始まるが、地元要望もある田代昌町交差点から南側の道路整備もあわせて実施できないか。

【部長(答弁)】
田代昌町交差点より南側につきまして、高速道路のボックスに歩道が整備されていることから、今回の道路計画におきまして、当該ボックスまでの区間について、可能な範囲で通学路の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

9月議会一般質問

公約「観光交流の活性化・拠点整備」について



観光名所の ブラッシュアップとは

【西依(質問)】
市長選公約に「勝尾城、河内ダムや朝日山といった観光名所をブラッシュアップし、観光交流拠点へと整備」とあるが、それぞれのブラッシュアップの手法は。

【市長(答弁)】
「重点戦略」において、「産業と観光の魅力を高める都市づくり」として取り組むこととしており、まずは、サンメッセ鳥栖に開設す

る歴史・文化交流発信施設整備事業を「重点戦略」に位置付け、勝尾城築紫氏遺跡をはじめとする観光資源としての魅力もPRしてまいります。

そのほかの拠点につきましても、重点戦略の中で、観光資源としてどのように活性化すべきかなどについて検討するよう、政策部に指示しているところでございます。

【西依(質問)】
ブラッシュアップとは、磨きをかけてさらによくするということではないのか。PRのやり方ではなく、個別で勝尾城はこうする、河内ダムはこうするといった具体的な整備手法を検討いただきたい。

河内ダム拠点整備Pを 立ち上げてはどうか

【西依(質問)】
具体的な手法を提案したい。自然・レクリエーションの拠点として、建設経済常任委員会でも検討しているが、市民の森にアドベンチャー体験施設や河内ダム湖を往復するジップスライドを整備して、市民の森を核とした、河内ダム拠点整備プロジェクト(案)を立ち上げてはどうか。

【西依(質問)】
地元(今町)との調整も必要だが、弥生が丘駅前交差点から北側の道路整備(拡幅)の可能性はないのか。

【部長(答弁)】
今町につきましても、現時点で道路拡幅の計画はございませんが、歩行者や自動車などの交通の状況を注視しながら、必要に応じて、可能な範囲の中で、通学路の安全確保に取り組みたいと考えております。



弥生が丘本ごう川 調整池の有効活用を

【西依(質問)】
市は、当初、本ごう川防災調節池公園と呼び、「地域の子供たちが遊ぶ、住民が散策できる公園の整備実現に向けて、県に要望して

【部長(答弁)】
市民の森につきましても、快適に散策していただけるよう、施設の整備事業を行ってきており、本年度の主な事業といたしましては、中央道階段整備工事を行っておりです。

議員ご提案の「河内ダム拠点整備プロジェクト」につきましては、現時点で立ち上げる予定はございませんが、近年は栖の宿キャンプ場に多くの方が訪れており、河内ダム周辺施設全体の利用者は増加



している状況でございます。利用者が増加している中、市民の森、栖の宿、河内河川プールをつなぐ導線が課題と考えており、各施設の回遊性を高めるような整備を進めて行く必要があるものと考えております。

まずは、これらの課題課題を解消していくとともに、関係各課との連携を図りながら、河内ダム周辺の魅力向上に努めてまいりたいと考えております。

く」という立場でしたが、未だに調節池公園にはなっていない、今も変わらないのか。

【部長(答弁)】
本ごう川防災調節池は、大雨時の防災機能を有した調整池であり、河川に位置づけられております。本市といたしましては、地域の子供たちが遊ぶ、住民が散策できる広場としての活用については、現在も変わらぬものであると認識いたしております。

【西依(質問)】
県道に面した好立地であるためパークPFI(公募設置管理制度)導入も含め、管理委託について県と協議し、ドッグラン、キャンプBBQ、スケートボード等の整備を検討できないか。

現在、地元(弥生が丘地区)で公園の活用案「みんなが集まる自由な広場」を検討しており、県へ要望を行うことを予定している中で、その際は、市も地元と県との間に入って調整・協議等を行うことはできないのか。

【部長(答弁)】
「本ごう川防災調節池公園」の広場部分の管理につきましては、平成9年佐賀県と管理委託を締結

しており、公園内の清掃、除草、樹木の剪定などについては市が管理し、堤防面の伐採及び浚渫など、河川管理上、必要な事項につきましては、県が管理することとなっております。

議員ご提案の、本ごう川防災調節池の将来像「みんなが集まる自由な広場」につきましては、地域住民の皆さまが楽しめるものであると思いますが、特に、近年、線状降水帯による集中豪雨が頻発しておりますことから、防災調節池の機能を阻害する施設の設置は困難であると考えています。

つきましては、防災調節池としての機能に支障しない範囲で今後、県と調整などを行ってまいりたいと考えております。

